

主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	1.496	▲3.9	▲34.2	▲114.5	1.609	1.794	2.225
日本	-0.280	▲3.5	▲12.5	▲38.5	-0.222	-0.157	-0.069
ドイツ	-0.700	▲2.5	▲30.1	▲104.6	-0.599	-0.377	-0.064
豪州	0.885	▲8.8	▲31.9	▲168.4	0.985	1.262	1.791
株価							
NYダウ	26403.28	+3.0	▲2.9	+1.6	26182	26318	25625
日経平均	20704.37	▲0.0	▲4.6	▲9.5	20750	21106	21195
ユーロSTOXX50	3426.76	+2.8	▲1.0	▲0.1	3371	3414	3310
上海総合	2886.24	▲0.4	▲2.2	+5.4	2858	2903	2854
為替相場							
ドル/円	106.28	+0.8	▲2.2	▲4.2	106.49	107.78	109.74
ユーロ/円	116.87	▲0.5	▲3.5	▲9.8	118.49	120.75	123.75
豪ドル/円	71.62	+0.6	▲4.0	▲11.2	72.21	74.37	77.23
ユーロ/ドル	1.0992	▲1.4	▲1.5	▲5.8	1.112	1.120	1.128
商品市況							
WTI	55.10	+1.7	▲5.1	▲21.6	55.20	56.20	56.05
金	1523	▲0.2	+6.5	+26.9	1493	1409	1332

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (8/26~8/30) の金融市場は、米中関係に対する不安感を背景に金利の低下傾向が継続する一方、株価は下げ止まった。為替相場では、主要通貨間では米ドルに買い戻しの動きが強まり、円やユーロは対ドルで下落した。

今週のマーケットは、米国が対中関税引き上げ第4弾を実行に移し、中国もこれに対抗する形で週が明けるものの、同問題について現状までは市場は織り込み済みとなっており、特に大きな反応はないだろう。注目は再び米国を中心としたファンダメンタルズに移り、週内に発表されるISM製造業景気指数や米雇用統計、ベージュブックに一喜一憂する展開となる。製造業部門の減速は世界的な現象となっているが、米ISM景気指数は未だ判断基準の分かれ目となる50ポイントを上回っており、米国のみならず世界の景況感を支える役割を担っている側面がある。それだけに、同指数が50を割り込めば、景気に対する市場のセンチメントは一層不安定なものになりかねない。また、先進国では個人消費が堅調に推移していることで景気の失速が防がれているだけに、先行きの消費を占む雇用統計の重要性も変わらずだ。市場では両統計に対して底堅い結果を予想しているが、上ぶれば債券が、下ぶれば株が大きく動く材料になる。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
9月2日(月)	日本：法人企業統計(4-6月)・設備投資(除ソフト)	★	+2.4%	+6.9%	前年比
	・経常利益		—	+10.3%	前年比
	日本：新車販売台数(8月)・乗用車		—	+5.3%	前年比
	中国：財新PMI製造業景気指数(8月)	★★	49.8	49.9	ポイント
9月3日(火)	豪州：金融政策委員会	★★	1.00%	1.00%	RBA政策金利誘導目標
	南ア：実質GDP(4-6月期)		+0.8%	0.0%	前年比
	米国：ISM製造業景気指数(8月)	★★★	51.3	51.2	ポイント
9月4日(水)	豪州：実質GDP(4-6月期)	★	+1.6%	+1.8%	前年比
	ユーロ：小売売上高(7月)		▲0.6%	+1.1%	前月比
	米国：貿易収支(7月)		▲548	▲552	億ドル
	米国：自動車販売台数(8月)		1,690	1,680	万台
	カナダ：金融政策委員会		1.75%	1.75%	翌日物貸出金利
9月5日(木)	スウェーデン：金融政策委員会		▲0.25%	▲0.25%	レボ金利
	米国：ADP雇用統計(8月)	★★★	+140	+156	前月差、千人
	米国：ISM非製造業景気指数(8月)	★★	54.0	53.7	ポイント
9月6日(金)	日本：毎月勤労統計(7月)・現金給与総額		+0.1%	+0.4%	前年比
	日本：家計調査(7月)・全世帯実質消費支出		+1.1%	+2.7%	前年比
	米国：雇用統計(8月)・非農業就業者数	★★★	+162	+164	前月差、千人
	・失業率	★★★	3.7%	3.7%	
	・時間あたり賃金	★★★	+3.0%	+3.2%	前年比
9月7日(土)	—				
9月8日(日)	中国：貿易統計(8月)・輸出	★★★	+2.6%	+3.3%	前年比
	・輸入	★★	—	▲5.3%	前年比

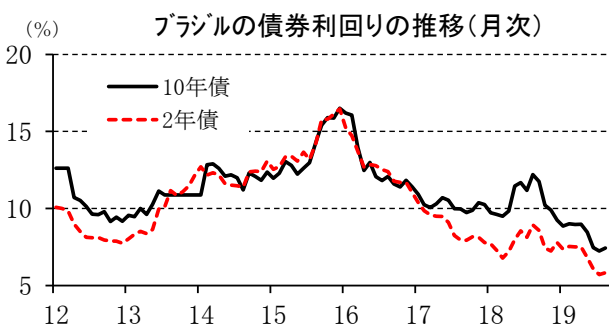
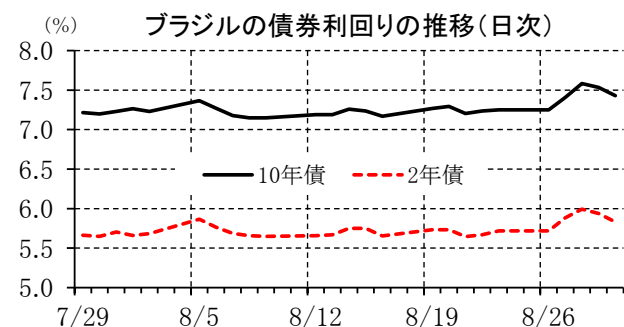
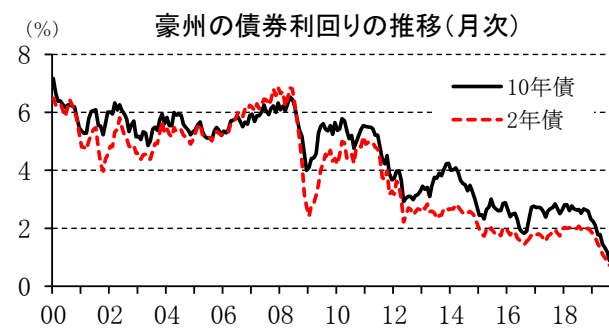
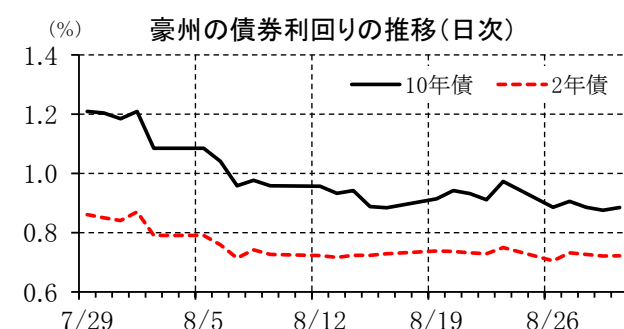
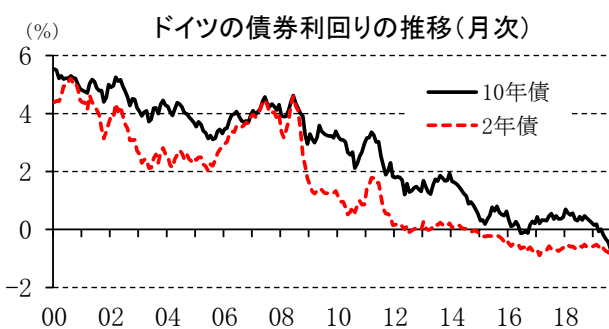
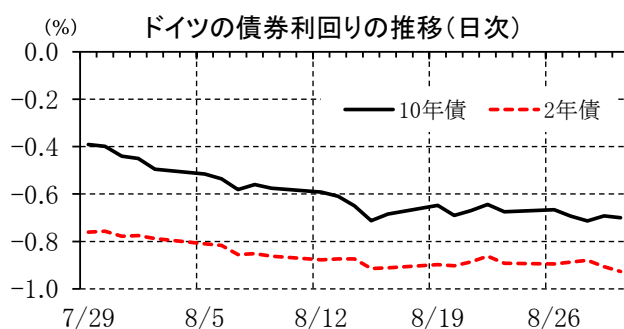
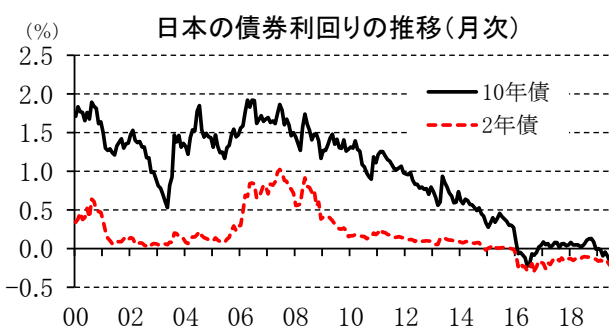
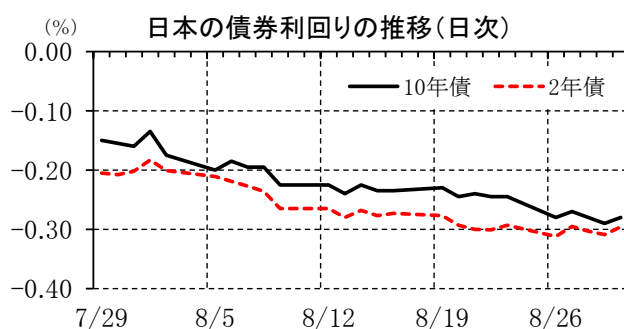
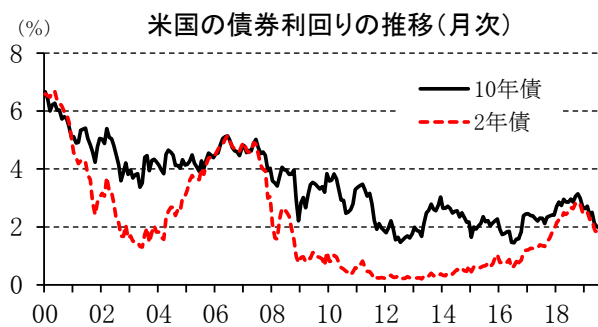
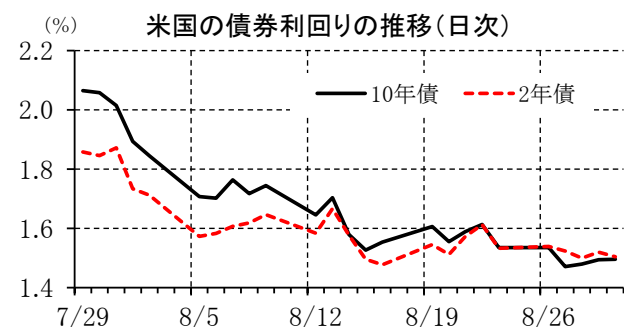
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

その他の注目イベント・材料

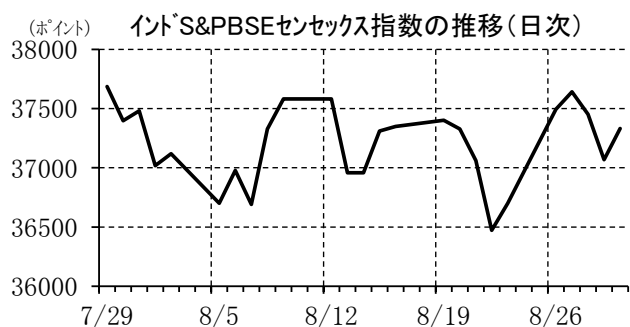
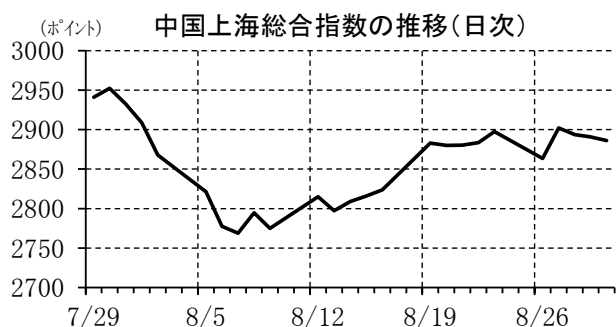
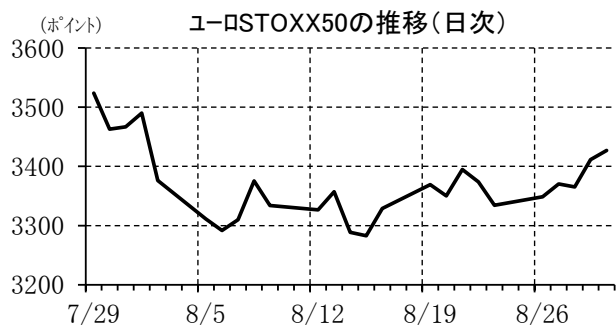
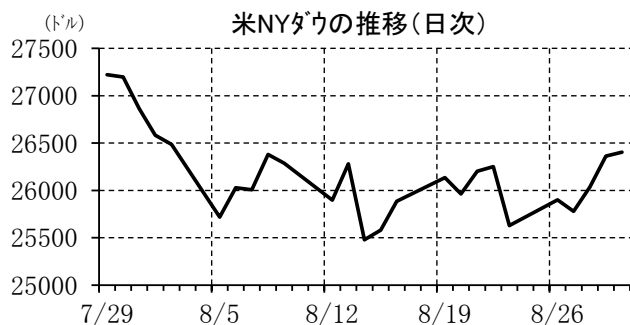
発表日	イベント	注目度	備考
9月2日(月)	米国：休場(他にカナダ、インドなど)		
9月3日(火)	—		
9月4日(水)	日本：黒田日銀総裁挨拶	★★	
	日本：片岡日銀審議委員講演		
	米国：米中経済安全保障調査委員会	★★★	
	米国：ハーゲン・ユブ・ツク	★★★	
	米国：NY連銀総裁講演	★	
米国：ボウマンFRB理事講演	★		
9月5日(木)	—		
9月6日(金)	—		
9月7日(土)	—		
9月8日(日)	—		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

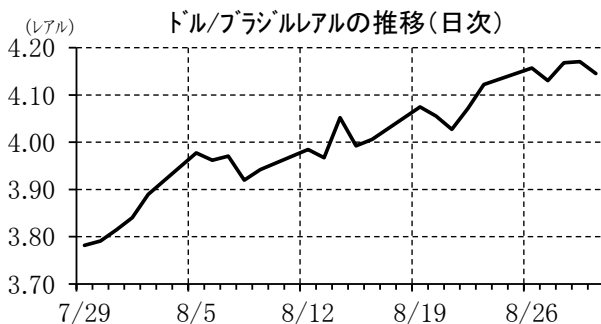
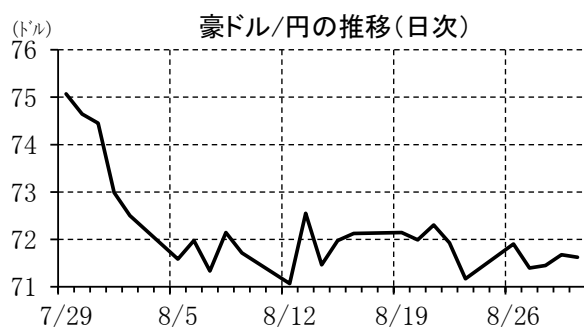
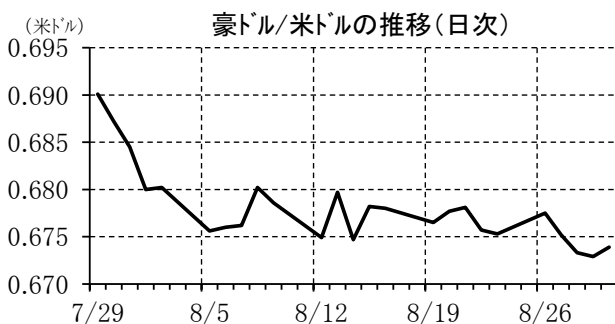
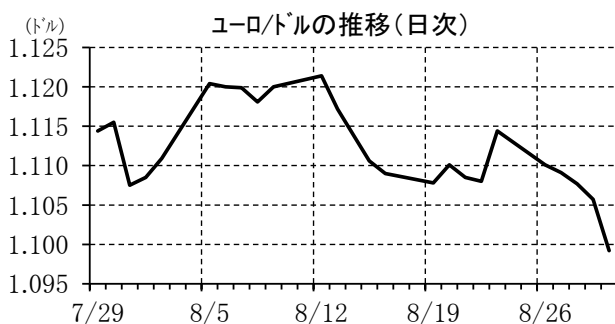
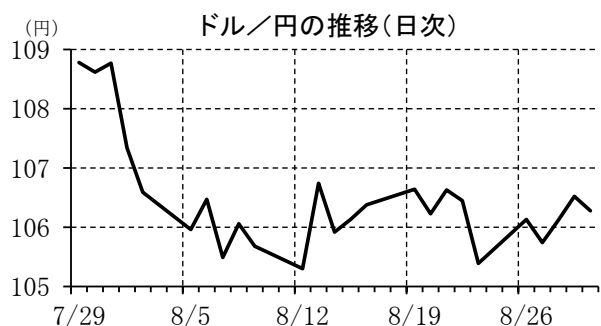
【債券利回り】



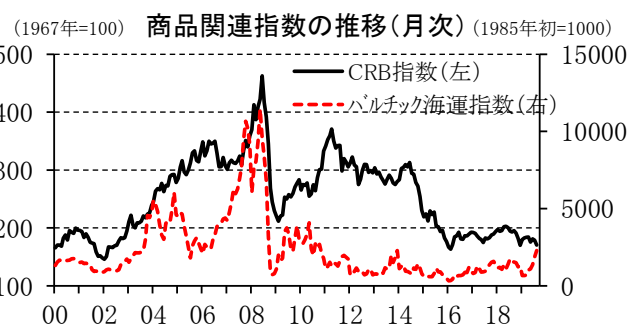
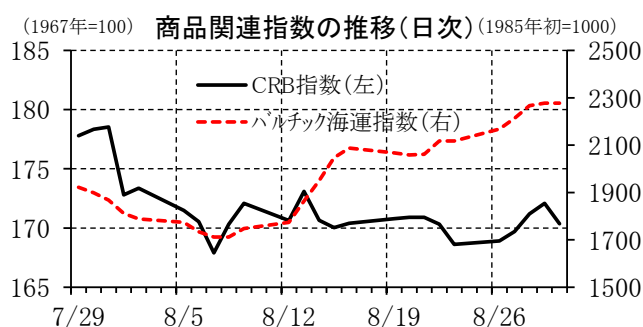
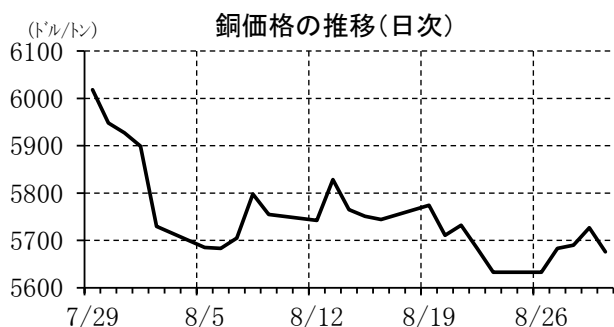
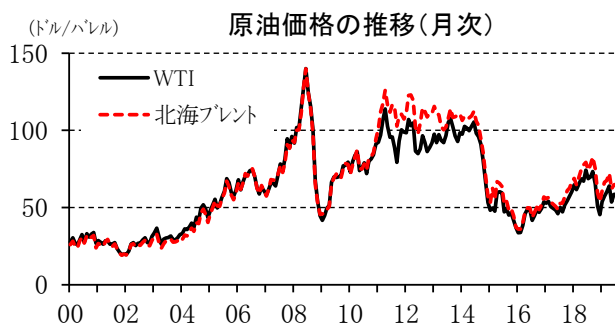
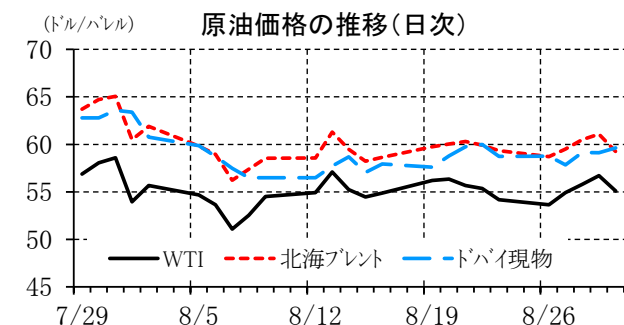
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。